

プロジェクト代表者: 佐々木 香織

1. プロジェクトの目的・概要

俱知安・ニセコ地域では外国人居住者と観光客が急増しており、その対応が喫緊の課題である。現下、教育や行政サービスは適応し始めているが、医療サービスは未知数だ。マイノリティを抱える地域における医療は、言語の差異ばかりでなく、身体・疾病観や医療制度といった文化・社会的差異にも起因し、いわゆる*lost in translation*が起こりがちである。その結果、診察や治療が滞ったり、患者が不必要な不安に陥ったりしやすい。その為、ロンドンなどの国際都市では、その対策を始めて久しい。本プロジェクトは、ゼミ生を中心とし、この問題にまつわる『地域の課題』を社会調査(質問紙、聞き取り)により追究し、その『解決策』の提案を行うことを目的とする。具体的には、外国人と日本人医師・看護師の*lost in translation*を防ぐような日本語と英語での「手引き」や「問診票」等の作成といった実践的解決策の提案も視野に入れている。解決策には、関係者からのフィードバックを目的とした調査も実施し、より現場の声を反映した解決策を模索したい。本プロジェクトを通じ、①『地域貢献』が成され、更には、②参加学生が、a) 地域の課題と社会調査を習熟し、b) 地域の課題に協働して取り組み、c) 英語の活用もできるという、『グローバル人材』へ育っていくことが期待される。

2. プロジェクトの進捗状況について (～H29.10)

1) 予備調査と第一回調査(夏休みまで)

地域外国人の医療ニーズを、行政、学校、医療施設(薬局を含める)の三班に分かれて聞き取り調査をした。結果は第一に、地域定住者と旅行者(滞在2週間未満)は、医療や健康に不安や問題をあまり抱えておらず、情報を必要としていたのは2週間—6か月の長期滞在者であった。第二に、そのような長期滞在者は、a)どこにどの様な医療施設があるかという**情報の不足**、b)その施設の基本情報(時間、対象、取扱う薬品、言語サービス、支払いなど)が**入手困難**という、二つの問題を抱えていた。更に地域全体としてはc) 外国人、行政、健康関連の事業者、医療機関の間で、情報と連携が不足しており、外国人が**ドラッグストアも医療機関もたらい回し**されている問題が浮かび上がった。

2) 第二回調査 (10月)

外国人とサービスを提供する日本人にとって具体的な「情報不足」の内容、外国人が「たらい回し」になる原因、「lost in translation」に由来する外国人の「不安」、を明らかにする聞き取り調査を行った。ここで四点の収穫を得た。d) 日本の医薬品販売形態とそこにいる人材(i.e.薬剤師の配置と販売員のレベル)が外国人の期待と大きく乖離していることに起因して、業者・施設を「はしご」している問題、e) 疾病・怪我の際に、救急を含めてどういう医療施設へ行くかという期待や認識のギャップに起因する不安やlost in translationの問題、f) 日本の国民健康保険制度に対する漠然とした不安と提供される説明が分かりにくい問題、g) 病院における診察の流れや手順が海外と異なるゆえに起こるlost in translationの問題、e) どの状況が病院マターで、どの状況が薬局マターなのかの認識の違い/lost in translationに起因する施設の「はしご」問題である。

3. 今後の取組予定について

1) 第三回調査の準備と実査(11—1月)

季節滞在の外国人向けの医療『手引き』と『ウェブサイト』を作成に向けた調査とその準備を行う予定である。調査目的は、A)各施設に『手引き』のドラフトを見せ、フィードバックをもらうこと、B)外国人に対してアンケートと聞き取りを行い、彼らのニーズの確認を行った上で『ウェブサイト』に載せる追加情報を洗い出すことである。なお『手引き』の掲載内容は、a)医療・健康施設を載せた地図、b)各施設に関する外国人が必要とする情報、c)利用する施設選択のためのチャート、d)病院診察の手順・フローチャート、e) 保険制度など医療の仕組みの説明とチャートである。

2) 『手引き』作成と追加調査(1月—3月)

調査結果をもとに、春休み期間中に『手引き』の完成をする計画である。作成途中で確認作業があると思われるため、ゼミ生数人による小規模な追加調査も行う。4月には『手引き』の配布と『ウェブサイト』を公開し、春スキーのシーズンに活用してもらう予定でいる。